

## コロナ禍における在宅看護学実習の取り組み

# Efforts for Home Health Nursing Practice During the Coronavirus Crisis

今井 弥生<sup>1)</sup>・高橋 亜希子<sup>2)</sup>・度曾 裕子<sup>1)</sup>

Yayoi IMAI, Akiko TAKAHASHI and Yuko WATARAI

新型コロナウイルス感染症 (CoronaVirus Disease 2019 以下、COVID-19) の影響は、今までの看護学実習の在り方を見直す機会となった。看護学実習は、授業で得た知識や技術を実践で統合させる大きな役割があるが、その重要な学びの機会が、COVID-19 によって制限されることとなった。そのため、本研究では、臨地実習に代替する在宅看護学領域における実習 (以下、在宅看護学実習) の取り組みとして、本学の実習施設の受け入れ状況や感染予防を踏まえ、可能な限り臨床現場に近い環境で実習が体験できる実習プログラムの構築を行った。

具体的には、臨床との連携による体験学習や、事例、模擬患者、ロールプレイなどのシミュレーションを取り入れ、在宅看護学実習の目標に沿った内容と方法について検討した。

### I. はじめに

看護は実践の科学といわれるように、現場での体験が知識や技術に結びつく。しかし、2020 年度からの新型コロナウイルス感染症 (CoronaVirus Disease 2019 以下: COVID-19) による世界的なパンデミックの影響によって、看護教育の柱ともいえる臨地実習の実施が困難になった。

厚生労働省医政局看護課による新型コロナウイルス感染症の発生に伴う看護師等養成所における臨地実習の取扱い等について<sup>1)</sup>では、実習を実施する時期の後ろ倒し等、教育計画の変更を検討することが通達された。留意点として、学内での演習により代替する場合はシミュレーション機器や模擬患者などを用いて日々変化する患者の状態をアセスメントする演習、学生同士による実技演習、患者とのコミュニケーション能力を養う演習など、可能な限り臨地に近い状況を設定した演習方法が記載されていた。

また、文部科学省が行った新型コロナウイルス感染症下における看護系大学の臨地実習の在り方に関する有識者会議 報告書<sup>2)</sup>でも、臨地実習の代替としての遠隔実習や臨地実習と学内実習の組み合わせなどが報告された。

このような実習の取り組みや実践報告としての論文も発表されており、CiNii のデータベースでは成人、小児、母性、精神、老年、公衆衛生の専門領域や実習準備に関する委員会等の実習取り組み、実践報告についての論文が 12 件であった。しかし、該当する論文の中に、在宅看護学領域と精神看護学領域の実習の取り組みと実践報告についての先行研究は含まれていなかった。

そのため、本研究では、在宅看護学教員の立場から COVID-19 の影響による臨地実習に代替する在宅看護学領域の実習の取り組みとして、本学の実習施設の受け入れ状況や感染予防を踏まえ、臨床現場に近い環境で実習が体験できるプログラムの構築や実践について、在宅看護学実習の目標に沿った内容と方法を検討した。また、このような現状は初めてのため、今後、コロナ禍における在宅看護学実習の在り方についての一助となる。

連絡先: 今井弥生 yimai@cis.ac.jp

1) 千葉科学大学看護学部看護学科 Department of Nursing, Faculty of Nursing, Chiba Institute of Science

2) リハビリ訪問看護ステーション NEXT かとり  
Rehabilitation Home-Visit Nursing Station NEXT Katori

(2021年9月29日受付, 2022年1月27日受理)

## II. 目的

COVID-19 の状況下における本学の在宅看護学実習を代替とする学内演習を行うため、臨床現場に近い環境で実習が体験できるプログラムの構築や実践について、実習目標に沿った内容と方法を検討する。

## III. 用語の定義

本研究で用いる用語の意味は以下のとおりである。

COVID-19 の状況下における本学の在宅看護学領域における実習（以下、在宅看護学実習）とし、その実習方法については学内演習とする。

疑似訪問とは、訪問看護実習で行う同行訪問の場面を学内演習にて模擬的に療養者、家族、看護師を演じて再現することである。尚、今回、同行訪問に行く学生、療養者、家族などは学生同士で担当し、指導役には、臨床の訪問看護師又は、教員が担当した。

## IV. 在宅看護学実習の概要

### 1. 実習目的・実習目標

本学の在宅看護学実習の目的として、在宅療養者と家族を理解し、看護における基礎的实践能力を習得するとともに、地域ケアとしての在宅看護の役割について学ぶ。

実習目標としては、「在宅看護における対象の理解と看護展開」7項目、「地域における訪問看護の機能・役割」3項目、「在宅療養生活を支える地域ケアの実際」4項目、「実習に臨む姿勢」6項目の計20項目とする。

### 2. 実習評価

評価表に基づき、実習記録、援助やカンファレンス、出席状況などで総合評価を行う。コロナ禍でも実習方法への工夫や配慮は必要であるが実習到達目的・目標は同じである。

### 3. 実習施設

訪問看護ステーション8カ所で、設置主体は社会福祉法人1、医療法人3、市町村1、会社3カ所である。1クールに稼働する施設は3～5施設、1つの施設に2名の学生を配置した。

## V. 実習開始準備

### 1. 実習時期

本学の实習期間の特徴として、3年生の秋学期に実習が開始され、4年次の春学期に終了する(8クール)である。そのため、2020年の春学期より、コロナ禍における実習対策が行われた。

### 2. 施設の受け入れ状況

実習施設である訪問看護ステーションの臨地実習に対する方針を確認するため、予め管理者と電話で相談した上で、①実習受け入れの可否、②受け入れが困難な場合、どのような内容や方法であれば協力が可能か、調査を行った。その結果は下記のとおりである。

### <2020年5月～7月(4クール)>

- (1)対象学生：4年生38名
- (2)実習施設：訪問看護ステーション5カ所
- (3)学生配置人数：各施設学生1～2名
- (4)受け入れ可否：可
- (5)受け入れ範囲
  - ①全施設内への立ち入り禁止
  - ②全施設において同行訪問不可
  - ③電子機器の活用（メール、FAX、電話は可能、ZOOMは不可）
- (6)受け入れ内容
  - ①各訪問看護ステーションのパンフレットやオリエンテーション資料（対象、訪問件数、訪問範囲、職員数、方針等）の提供
  - ②訪問看護ステーションへのメール、FAX、電話による間接的なインタビュー（活動の実際等）の実施
  - ③ゲストスピーカーとして訪問看護管理者（K訪問看護ステーション）、重度心障害児と家族の方

### <2020年10月～2021年7月(8クール)>

- (1)対象学生：3年生24名、4年生22名の計46名
- (2)実習施設：訪問看護ステーション5カ所
- (3)学生配置人数：各施設学生1～2名
- (4)受け入れ可否：可
- (5)受け入れ範囲
  - ①短時間であれば施設への立ち入りは5カ所の可、3カ所が不可
  - ②全施設において同行訪問は不可
  - ③施設内でのオリエンテーション実施許可有り
  - ④電子機器の活用（メール、FAX、電話は可、ZOOMは不可または検討）
- (6)受け入れ内容
  - ①施設内でのオリエンテーション、見学
  - ②訪問看護管理者への直接的インタビュー
  - ③ゲストスピーカーとして訪問看護管理者、訪問作業療法士（K訪問看護ステーション）、訪問診療の医師と看護師、重度心障害児と家族の方

### 3. 感染対策

自己健康管理表を用いて、実習の2週間前から、体温、症状、内服薬、受診機関、食事摂取状況、周囲の人（家族など）の症状について各自記録する。また、不特定多

数の集団への参加は避け、食事も孤食を原則とする。

ゲストスピーカーなどが来校する場合、換気と距離をあけての座席、手洗い、うがい、アルコール消毒、マスクの着用を徹底した。

## VI. 臨地実習の代替としての実習プログラム

### 1. 実習目標に沿った実習方法と内容

2020年のコロナ禍では、教育現場も実習施設も実際にどのように対応しているのか手探りの状態であった。そのため、施設の受け入れ状況や感染対策を踏まえた上で、実習目標に沿って、臨床との協力が必要な内容について選択し、どのような方法であれば受け入れが可能か施設側と検討する必要があった。

その結果、臨地実習の代替として、以下のような実習内容と方法についての実習プログラムを構築し、学内演習を実施した。学内演習における2週間のスケジュールについては表1のとおりである。また、実習目標に沿っての実習内容と方法については表2に示した。尚、施設側の協力が得られた実習目標と内容については網掛けの表示とした。

#### 実習目標1. 在宅看護における対象の理解と看護展開

##### (1) 疑似訪問

学内演習にて、事例を基に疑似訪問を実施し看護展開を行った。疑似訪問では、モデル人形を活用や学生が療養者役、家族役、訪問看護師役を演じるロールプレイを取り入れた。また、同行する指導者役には、教員や臨床から訪問看護師が対応した。

事例は在宅看護でみられる主な疾患を有している療養者を基にして作成した。2020年5月～7月の事例については、難病（脊髄小脳変性症）、高齢者（アルツハイマー型認知症）、小児（気管支軟化症）の3事例、2020年10月～2021年7月からは精神（統合失調症）を加えた4事例とした。各事例については、年齢、性別、現病歴、既往歴、職歴、生育歴、医療処置、日常生活自立度、家族の状況（家族構成、家族の介護・健康・思い）、訪問看護導入の経緯、訪問看護内容、1日の生活の流れ、社会資源の活用（利用しているサービス、医療保険制度、医療助成、手帳の有無）等について提示した。

援助については、実際の同行訪問と同様に行った。バイタルサイン測定、観察、コミュニケーション、指導などの基本技術は指導者の見守りの下で実施し、日常生活援助は指導者と共に介助への参加、医療処置に関する技術は見学とした。また、援助技術の知識や理解度については、訪問終了後に発問をとおして確認や評価を行った。

##### (2) 対象の理解

動画をとおして、筋萎縮性側索硬化症（ALS）療養者と家族の在宅療養生活を考えた。また、ゲストスピーカ

ーとして、来校の承諾が得られた療養者と家族介護者から話を伺う機会を設けた。

##### (3) 自分らしく生きる意味

動画をとおして、様々な立場から、療養者自身が自分らしく生きることや生と死の意味について考え、在宅看護における自己決定の支援の意味を検討する機会を設けた。

#### 実習目標2. 訪問看護ステーションの機能・役割

##### (1) 訪問看護ステーションの特徴

COVID-19の影響を受ける前は、訪問看護ステーション内で、方針、対象、訪問件数、訪問範囲、職員数などをオリエンテーションとして指導者が説明していた。しかし、2020年5月～7月から、施設への立ち入りができなくなった。2020年10月からは、時間指定の短時間であれば施設内に入ることができるようになった。施設内立ち入りの禁止や時間の制限がある中では短時間で学習内容を理解する必要がため、実習方法について次のように工夫した。

まず一つ目として、事前に施設から提供されたパンフレットや、インターネットに掲載されている実習施設の情報収集を行う時間を設けた。また、訪問看護ステーションの1日の業務の流れ、訪問バッグの中身についての動画を用いた。

その上で、二つ目として、学生が疑問に思うことや、調べきれなかった情報（療養者や家族の特徴、実際の活動内容、夜間対応、リスクマネジメント、服装など）についてインタビューを行う。インタビューの方法は、上記の内容を質問用紙にまとめて、インタビューの前日までに電子機器を活用して指導者に送り、インタビュー当日は指定された時間（2～3時間程度）に指導者からの説明する時間を設定した。しかし、コロナ禍の初期であった2020年5月～7月は施設内へ立ち入り禁止のため、電子機器を通して説明を行った。2020年10月～2021年7月からは、立ち入りが許可された施設では、現地でのオリエンテーションを行った。

三つ目として、訪問看護ステーションが所在する地域の特徴について、学生各自でインターネットを用いて調べた上で、インタビューの日程と合わせて地域に出向き、学生が体験を通して確認できるようにした。これは、実習目標3（表2）にも関連する内容となる。

##### (2) 訪問看護師の活動と役割

施設の協力を得て、K訪問看護ステーションの管理者（訪問看護認定看護師）がゲストスピーカーとして来校し、「訪問看護の魅力」というテーマで、利用者の承諾を得て、訪問のエピソードや動画を交えて学内演習を行った。

### 実習目標 3. 在宅療養生活を支える地域ケアの実際

#### (1) 地域の特徴

訪問看護ステーションが所在する地域の特徴として、人口、高齢化率、出生率、主な疾患、産業、観光名所など、インターネットから調べた上で、実際に地域に出向き、交通機関や保健医療福祉機関、商店、生活圏について調査することで、その地域に住む人達の暮らしについて考えられる機会にした。

#### (2) 併設・関連施設、多職種との役割連携

ゲストスピーカーとして k 訪問看護ステーションの管理者が来校しての学内演習の実施に加えて、2020 年 10 月からは、訪問リハビリ、訪問診療の医師と看護師にも協力を得て、活動の実際についての講義・演習を行った。

また、訪問看護ステーションの併設施設の医療機関において、各部門（医療連携室、医療事務、訪問診療）の担当からの説明と見学の機会を設けた。

### 2. 先行文献から見た実習の取り組み

CiNi のデータベースを活用して文献検索を行った。その結果、表 3 に示したように 12 件の文献が該当した<sup>3)~14)</sup>。

文献検索の方法としては、最初に「コロナ禍」×「看護学実習」×「取り組み」の 3 キーワードで検索をしたところ 9 件の論文が該当した。また、「コロナ禍」×「看護学実習」の 2 つのキーワードで検索したところ、19 件の論文が該当した。前者の 3 つのキーワードで検索した 9 件の文献は、後者の 2 つのキーワードで検索した 19 件の文献に全て含まれていた。また、19 件の文献のうち 7 件が同一の文献が重複していたため、それらを除いた 12 件の文献についてレビューを行った。専門領域ごとに分類すると、基礎看護学実習が 5 件、公衆衛生看護学実習 2 件、老年看護学実習 1 件、成人看護学実習 1 件、母性看護学実習 1 件、小児看護学実習 1 件、看護実習の委員会活動の準備 1 件に分けられた。

主な取り組みとしては、①電子通信機器を活用した遠隔実習、②時間を短縮した実習方法、③学生複数名で 1 人の患者を受け持つ方法、④事例、模擬患者、ロールプレイなどのシュミレーションの教育技法の活用を行っていた。

実施方法としては、対面は表 3 の NO.1、2、4、5、12 の文献であり、遠隔ツールのみのは No.3、6、10、11、対面と遠隔ツールの両方を活用したものは NO. 7、8、9 の文献であった。

どの先行文献においても可能な限り、臨床現場での体験を再現するため、臨床との連携を図ると共に、感染の機会を最小限にすることに配慮していた。

## Ⅶ. 考察

### 1. 実習目標に沿った実習内容と方法

#### 実習目標 1. 在宅看護における対象の理解と看護展開

実際の療養者や家族とは違い、事例は文字だけのため、健康状態や生活環境のイメージがしにくく、理解するまで時間を要する。また、同行訪問と疑似訪問では、体験する知識や技術にも制約がある。さらに、学生は基礎看護学実習などで病院実習の経験はあるが、訪問看護実習は初めての経験である。疑似訪問であるとしても、他人の家に訪問し実習を行うことは緊張度も高く、何をしたらいいかわからなくなってしまう学生も多い。

藤岡、野村<sup>15)</sup>は、模擬患者、ロールプレイ、モデル、事例、CAI (Computer Aided Instruction)、ゲーム、劇化、体験学習などのシュミレーション的教育技法は、学生の情意、認知、技能の全ての統合される学習の状況を作り出すと述べている。また、それによって、臨床知（援助を必要としている患者の人間の状況に身体でかわり、ニーズに応える相互主観的な行為）の形成を促すと指摘した。

今回、疑似訪問において、事例をとおして、モデル人形や学生同士で療養者役、家族役を演じるロールプレイなどのシュミレーションを実施したことで、最初は、学生の中でも漠然とした対象や生活環境、訪問看護師の役割等のイメージしか持つことができなかつたが、回数を重ねるごとに、徐々に事例が現実味を増した具体的な存在として考えられようになっていった。また、動画をとおして、療養者や家族の思いを聞いたり、ゲストスピーカーによる介護体験や療養者の生活の実情を聞くことは臨床現場の実情を理解する機会となった。それによって学生は「限られた時間で優先順位を決めてケアすることの難しさ」、「確実な知識と技術の必要性」、「療養者や家族の気持ちを受け止める大切さ」、「自分らしく生きる大切さ」等を感じており、カンファレンスや記録からもこれらの学びについて確認することができた。

このことから、実際には同行訪問はできなかつたが、学生自身が演じたり、体験したりすることで、対象の心情や障害、生活環境等がイメージしやすくなり、療養者や家族が抱える健康問題やニーズについて捉えることができたのではないかと考える。

#### 実習目標 2. 訪問看護ステーションの機能・役割

三宅ら<sup>16)</sup>は、在宅看護論臨地実習に臨む看護学生は、それまで経験した病院や施設での実習との大きな違いがある環境におかれ、不安や心配を抱えて実習に臨んでいると推察されると述べている。また、訪問における困りごととして、病院とは異なる看護介入があるとも指摘している。その理由として、学生は今まで病院には行ったことはあるが、訪問看護ステーションに行ったり、

見たりする機会がないことが背景にあると考えられる。そのため、学生は、病院と同様の建物や設備などを想像し、病院とは異なる自宅において、療養者がどのように生活しているのか、また、訪問看護師や家族がどのような看護や介護をしているのかイメージがつかないと考えられる。さらに、COVID-19の影響も加わったことで、臨床現場での実体験をとおして学ぶ機会がなくなってしまい、より一層イメージができず、理解することが難しい現状にあることが推察される。竹内ら<sup>5)</sup>も、臨床現場から直接、遠隔ツールを用いてオリエンテーションを行うことは、目的達成に有用であったと述べていることから、臨床現場がもたらす影響は大きい。

このことから、可能な限り、臨床現場に近い環境や関りを増やす方法として、視聴覚教材を用いたり、ゲストスピーカーとの交流を図ることや、実際に訪問看護ステーションの見学、管理者へのインタビューを行った。学生自身が体験することで、限られた時間でケアをする大変さ、様々な疾患や発達段階、健康段階にある療養者への看護、地域の社会資源に支えられていることなど、在宅看護の特徴の学びについてカンファレンスや記録の中で確認することができた。

### 実習目標3. 在宅療養生活を支える地域ケアの実際

地域を知ることは、そこで生活をしている人々を知ることとなり、その地域の社会資源を知ることにもつながる。今回の地域調査では、このような意図をもって行った。文部科学省の保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部を改正する省令の公布等について<sup>17)</sup>からも、「在宅看護論」を「地域・在宅看護論」に改めるとともに、規定順を変更し、基礎看護学の次に位置づけ、単位数を現行の「4単位」から2単位増の「6単位」とするとの通知があった。その背景には、在院日数の減少や地域完結型への移行等の現状があり、今後は、療養者や家族の暮らす家を取り巻く地域も視野に入れることが必要であることを示唆している。そのため、学生自身が、インターネットによって、訪問看護ステーションが所在する地域を調べ、実際に出向き、街並みや交通量、行き交う人々等について、自分たちの五感を通して感じることで、根拠のある情報となり、理解を促したと考える。すなわち、地域で暮らす生活者の立場になって見たり、聞いたり、感じることで、その地域が生活圏となって捉えることができたのではないかと考える。また、地域ケアの視点から、看護以外の専門分野である訪問リハビリ、訪問診療、医療連携室等の多職種から実際の活動について話を聞く機会は、貴重な体験となり、在宅においても医療が受けられるという新たな発見もあった。

若い学生にとって「老い」や「死」について考える機会は少なく、そのため、療養者や家族の立場にたつて考

えることは困難なことである。しかし、これらの機会を通して、疾患や障害を抱えながらも自分らしく生きるという意味や看護観について学生自身があらためて考える機会となった。

## 2. 先行文献から見た在宅看護学実習内容と方法

基礎、成人、老年、母性、小児、公衆衛生と委員会による12件の先行文献において、2つの共通点がみられた。一つにはCOVID-19を避けるため時間や人数、場所の制約を行うこと、もう一つには可能な限り臨床現場を再現することであった。そのためには、施設がどのような受け入れ状況であるのかを事前に確認した上で、実習目標から、施設と協力が必要な内容と、それを達成する方法について施設側と検討していく必要がある。このことは、鈴木ら<sup>17)</sup>も、今回のコロナ禍において、臨地で実習することの価値とはなにか、学生が実習で学ぶべきことは何かなど、教育の根源に目を向けていくが重要であると述べている。

看護は実践の科学といわれるように、看護の対象は人であることから、同じ疾患であっても、発達段階や健康段階、生活環境などによって、症状や障害の程度も異なり、援助も、個別性を考えて行う必要がある。その中でも在宅看護は、「個別性」や「ライフスタイル」、「自己決定」を尊重する看護分野である。そのため、臨床現場で、実際に様々な患者と接する機会や看護師の援助を目の当たりにすることは、一つ一つが貴重な体験である。それと共に、実際に、学生が自分の目で見て、体験し感じたことは、「百聞は一見に如かず」の諺と同様、伝わりやすく、理解しやすいといえる。

これらのことから、在宅看護学実習においても、感染予防を考慮しながら、施設の協力を得て、可能な限り臨床現場に近い環境や体験を取り入れていくことが必要である。

## VIII. 結論

1. 漠然とした療養者や家族、生活環境のイメージが、ロールプレイ、事例、疑似訪問等のシュミレーションを活用することで、現実味のある具体的な存在として捉えられることが示唆された。
2. 臨床現場からのゲストスピーカーによる演習や地域探索をすることで、看護の場の広がりや、生きる意味、看護観を考える機会となった。
3. 臨床現場で体験する知識や技術を習得する上で、可能な限り施設と協力を得ることが必要である。

## IX. おわりに

今回、コロナ禍において臨地実習の代替として、在宅看護学実習では、臨床との協力を得て現地オリエンテー

ション、インタビュー、ゲストスピーカーの来校などを取り入れて学内演習に移行した。また、2020年10月からは施設への立ち入りが可能となり、3日間の臨地実習が可能になった。

このことから、在宅看護学実習においても、感染予防を考慮しながら、施設の協力を得て、可能な限り臨床現場に近い環境や体験を取り入れることで臨地実習に代替することが可能となった。

今後の課題として、COVID-19の影響によって、未だ先がみえない状況が続いているため、感染状況に応じた予防対策が必要である。それと共に、施設の受け入れ状況に合わせた実習方法を検討していくことが必要である。

表 1. 週間スケジュール

	曜日	場所	主な実習内容 (2020年5月～7月)	主な実習内容 (2020年10月～)
1 週間目	月	学内	AM オリエンテーション、動画 (訪問看護の1日、訪問看護のバッグの中身) PM 疑似訪問	
	火	学内 臨地	AM 地域調査 (臨地) PM インタビュー	臨地 AM 地域調査 (臨地) PM インタビュー
	水	学内	AM 地域・インタビュー報告 PM 医療機器、介護用品の説明	学内 AM ゲストスピーカー (訪問看護) PM ゲストスピーカー (訪問リハビリ、訪問診療)
	木	学内	AM 訪問看護活動の実際 (職務経験) PM 疑似訪問	臨地 AM～臨地実習：医療機関の見学
	金	学内	記録整理 (zoom、メール) 自己学習	
2 週間目	月	学内	AM 動画 (筋委縮性側索硬化症患者と家族)、地域調査、インタビュー準備 PM 疑似訪問	
	火	学内 臨地	AM 地域調査 (臨地) PM インタビュー	臨地 AM 地域調査 (臨地) PM インタビュー
	水	学内	AM 地域・インタビュー報告 PM *ゲストスピーカー (療養者と家族)、	学内 AM 他事例の打ち合わせ PM 疑似訪問
	木	学内	AM ゲストスピーカー (訪問看護) PM 動画 (自分らしく生きる)、疑似訪問	学内 AM 動画 (自分らしく生きる) PM 疑似訪問
	金	学内	記録整理 (zoom、メール) 自己学習	

\*PM ゲストスピーカー小児看護学領域と合同で行う。2クール毎に1回実施。

表 2. 実習目標からみた実習内容と方法

実習目標	実習内容	実習方法
1.在宅看護における対象の理解と看護展開ができる	①在宅療養者の情報 ②家族の情報 ③アセスメント ④援助方法 ⑤社会資源の活用 ⑥楽しみ・生きがい ⑦訪問看護師の役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例による疑似訪問</li> <li>・ゲストスピーカー (療養者と家族)</li> <li>・動画 (筋委縮性側索硬化症患者と家族)</li> <li>・動画 (自分らしく生きる)</li> <li>・地域調査</li> <li>・ゲストスピーカー (訪問看護)</li> </ul>
2.地域における訪問看護ステーションの機能・役割が理解できる	①施設の特徴 ②職種と役割、連携 ③訪問看護制度とサービス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリエンテーション (見学、インタビュー)</li> <li>・(2020年5月～7月は電子機器活用との外から見学、2020年10月～電子機器活用と施設内で実施)</li> <li>・ゲストスピーカー (訪問看護、訪問リハビリ、訪問診療)</li> <li>・動画 (訪問看護の1日、訪問バッグの中身)</li> </ul>
3.在宅療養生活を支える地域ケアの実際が理解できる	①地域の特徴 ②関連・併設施理解と連携 ③保健医療福祉の役割連携 ④在宅看護の意義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域調査</li> <li>・ゲストスピーカー (訪問看護、訪問リハビリ、訪問診療)</li> <li>・医療機関の担当者の説明、見学実習 (2020年10月～)</li> </ul>
4.学習者として責任ある態度で実習に取り組むことができる	①目的意識 ②責任 ③調和 ④安全やプライバシー ⑤真摯な姿勢 ⑥事故健康管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記録</li> <li>・カンファレンス</li> <li>・出欠席状況</li> </ul>

\* は臨地の現場の方と連携して実施

表3. 先行文献からみた実習の取り組みと実践報告

NO.	著者 発行	専門領域	テーマ	実習方法
1	実藤ら <sup>3)</sup> 2020	基礎看護	コロナ禍における基礎看護学実習の新たな実施方法と実習目的の達成	事例、模擬患者（対面）
2	篠原ら <sup>4)</sup> 2020	基礎看護	看護系大学のコロナ禍における基礎看護学実習Iの学習実習の実態と教育の質確保に関する検討	事例、模擬患者、ロールイブレイ（対面）
3	竹内ら <sup>5)</sup> 2020	基礎看護	基礎看護学実習における同時双方向型遠隔院内オリエンテーションの試み：コロナ禍における病院と大学の協働でつくる新たな実習形態への挑戦	臨床現場からのオリエンテーション （遠隔ツール）
4	飯塚ら <sup>6)</sup> 2021	基礎看護	コロナ禍における基礎看護学実習Iの構築：シミュレーション実習導入の取り組み	事例、模擬患者、ロールイブレイ（対面）
5	鈴木ら <sup>7)</sup> 2021	基礎看護	コロナ禍における基礎看護学実習II学内実習プログラム構築の取り組み	事例、模擬患者、ロールイブレイ（対面）
6	三輪ら <sup>8)</sup> 2021	公衆衛生看護	新型コロナ禍における公衆衛生看護学実習の創意工夫と課題（実践報告）	事例、模擬患者、ロールイブレイ（遠隔ツール）
7	若杉ら <sup>9)</sup> 2021	公衆衛生看護	保健師教育課程の教育評価：-コロナ禍における遠隔（web）ツールを活用した公衆衛生看護学実習プログラムの実践-	事例、模擬患者、ロールイブレイ（対面・遠隔ツール）
8	前原ら <sup>10)</sup> 2021	老年看護	ICTを活用した遠隔実習の取り組み -コロナ禍での老年看護学実習の展開-（実践報告）	動画（遠隔ツール）
9	大島ら <sup>11)</sup> 2021	成人看護	コロナ禍における成人看護学実習I（慢性期看護実習）～臨床実習指導者と教員の協働による実習指導の取り組み第1報～	動画、インタビュー（対面・遠隔ツール）
10	千葉ら <sup>12)</sup> 2021	母性看護	コロナ禍における母性看護学実習の試み（実践報告）	動画（遠隔ツール） 地区踏査
11	岩佐ら <sup>13)</sup> 2021	小児看護	コロナ禍における小児看護学実習の成果と課題（実践報告）	事例、DVD、模擬患者（遠隔ツール）
12	藤村ら <sup>14)</sup> 2021	各委員会	激動の中での委員会活動 コロナ禍における遠隔授業および看護学実習開始に向けての準備に関する実践報告	遠隔ツール導入準備（対面）



## 引用文献

- 1) 厚生労働省医政局看護課：新型コロナウイルス感染症の発生に伴う看護師等養成所における臨地実習の取扱い等について 2020. <https://www.mhlw.go.jp/content/000642611.pdf>, (参照 2021-08-08) .
- 2) 文部科学省：新型コロナウイルス感染症下における看護系大学の臨地実習の在り方に関する有識者会議報告書 看護系大学における臨地実習の教育の質の維持・向上について 2021. [https://www.mext.go.jp/content/20210331-mxt\\_igaku-000013917\\_03.Pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210331-mxt_igaku-000013917_03.Pdf), (参照 2021-08-08) .
- 3) 実藤基子：コロナ禍における基礎看護学実習の新たな実施方法と実習目的の達成. キャリアと看護研究, 10, 1, 14-20, 2020.
- 4) 篠原幸恵, 讃井真理, 河野保子, 中島紀子, 羽藤典子, 永江真弓：看護系大学のコロナ禍における基礎看護学実習Iの学内実習の実態と教育の質確保に関する検討. 健康生活と看護学研究, 人間環境大学松山看護学部紀要, 3, 14-19, 2020.
- 5) 竹内久美子, 石井洋子, 江里口敦子, 山口佳子, 伊藤淳, 土屋彩夏, 大谷則子, 小笠原祐子, 小川明佳, 小溝早紀：基礎看護学実習における同時双方向型遠隔院内オリエンテーションの試み-コロナ禍における病院と大学の協働でつくる新たな実習形態への挑戦-. 看護実践の科学 45(12), 85-88, 2020.
- 6) 飯塚雅子, 棚橋泰之, 舟橋陽子, 北村容子, 三國光代：コロナ禍における基礎看護学実習Iの構築, シミュレーション実習導入の取り組み. 神奈川歯科大学短期大学部紀要, 8, 9-16, 2021.
- 7) 鈴木聡美, 菅原啓太, 岡根利津, 西川真野, 川島珠実, 上田貴子, 灘波浩子, 中西貴美子：コロナ禍における基礎看護学実習II学内実習プログラム構築の取り組み, 三重県立看護大学紀要, 特別号, 25-30, 2021.
- 8) 三輪真知子, 滝沢寛子, 高城智圭：新型コロナウイルス禍における公衆衛生看護学実習の創意工夫と課題. 京都看護, 5, 89-102, 2021.
- 9) 若杉早苗, 仲村秀子, 伊藤純子, 遠山大成, 川村佐和子：保健師教育課程の教育評価：コロナ禍における遠隔 (Web) ツールを活用した公衆衛生看護学実習プログラムの実践. 聖隷クリストファー大学看護学部紀要, 29, 93-106, 2021.
- 10) 前原なおみ, 堂本司, 千田昌子, 井上深幸：ICTを活用した遠隔実習の取り組み-コロナ禍での老年看護学実習の展開-. 京都看護, 5, 55-62, 2021.
- 11) 大島和子, 鈴木由紀子, 駒里枝, 齋藤みどり：コロナ禍における成人看護学実習I (慢性期看護実習) ～臨床実習指導者と教員の協働による実習指導の取り組み 第1報. 了徳寺大学研究紀要, 15, 39-48, 2021.
- 12) 千葉陽子, 林里沙子, 大庭かおり：コロナ禍における母性看護学実習の試み. 京都看護, 5, 63-65, 2021.
- 13) 岩佐有子：コロナ禍における小児看護学実習の成果と課題. 京都看護, 5, 67-75, 2021-03, 2021.
- 14) 藤村博恵：激動の中での委員会活動コロナ禍における遠隔授業および看護学実習開始に向けての準備に関する実践報告. 埼玉医科大学看護学科紀要, 14, 1, 13-18, 2021.
- 15) 藤岡完治, 野村明美：わかる授業をつくる看護教育技法 シミュレーション・体験学習. 医学書院, 東京, 5-6, 2000.
- 16) 三宅映子, 福武まゆみ, 島村美砂子, 太田 栄子：看護学生が感じている在宅看護論臨地実習における困りごと. 川崎医療短期大学紀要, 38, 7-15, 2018.
- 17) 文部科学省：保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部を改正する省令の公布等について 2020. 2 文科高第 666 号 医政発 1030 第 15 号, <https://www.zenhokan.or.jp/wp-content/uploads/tuuti915-1.pdf>, (参照 2021-08-08) .